

科目名	舞踊表現論特講		担当者		
英文名	Theory of Dance Movement				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
ダンス・ムーブメント（舞踊表現）という運動形式がもつ、芸術、教育、主張や交流の道具としての特徴を探り、理解してゆくことを目的とする。そのために、ダンスのもたらすコミュニケーションの構造を学び、力動イメージとしてのダンス・ムーブメントに対する認識を深める。					
【授業計画】					
1. ダンスの定義に向けて-舞踊学をかたちづくる諸領域			9. ダンスと教育(2)		
2. コミュニケーションの構造から見たダンスという現象			10. ダンスと健康(1)		
3. 「創る」をめぐる-創作という概念とオリジナリティへの視線			11. ダンスと健康(2)		
4. 「踊る」をめぐる-ダンサーの資質とトレーニングへの視線			12. ダンスと社会的規範		
5. 「観る」をめぐる-オーディエンスや批評家への視線			13. 再びダンスの核としての身体へ：リズムの本質		
6. ダンスと歴史(1)			14. イメージと身体		
7. ダンスと歴史(2)			15. ダンス・ムーブメント		
8. ダンスと教育(1)					
【到達目標】					
(1) ダンスを成立させる諸要素とそれらの関係を理解し、ダンス・ムーブメントの特徴を説明できる。					
(2) ダンスやそれを取り巻く現象を捉えた学術研究の動向と課題を把握し、各自の関心に引きつけて論じられる。					
【受講上の留意点】					
授業者から提供される情報と授業時間外学修の成果に基づく参加者同士のディスカッションにより授業を進行する。授業内で指定する文献・資料を熟読し、その内容に対しての考えを持った上で参加すること。					
※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。					
【授業時間外学修】					
毎時の終わりに、次回までの授業時間外学修課題を指定する。 (初回までの準備：能うかぎり「ダンス」の定義を収集し、授業で共有できる形式にしておくこと。)					
【教科書・参考書など】					
授業内で適宜、資料を配布するほか、課題文献を指定する。					
【成績評価方法】					
授業におけるプレゼンテーションやその準備と討議等の取り組みを60%、レポート課題の成果を40%として総合的に評価する。					
【関連科目】					
舞踊教育法特講					